

みちほの「オーストラリア生活体験記」(後編)

オーストラリアに住んでいながら、あまり国内旅行に行けなかったのが残念ですが、シドニーだけでもカメラに収めたい光景が沢山ありました。日差しの強さのせい、どの景色も色鮮やかで、思わず絵葉書にしたいくなる衝動にかられます。私達が住んでいた周りのお家は、新しいものから古い物まで、そして形も大きさも様々なのに、一軒だけを見ても全体で観ても絵になる、そんな素敵な空間でした。家を建てる時に、全体のバランスを計算して建てるのでしょうか？たしか、オーストラリアでは景観を損なわないように、洗濯物を外に干してはいけないと聞きました。一家に一台は乾燥機が必要ですね。

この国の素晴らしい天気は、景色だけでなく人や食べ物にまで良い影響があるようで、一般の人々から芸能人まで、とにかくチャリティーに熱心です。一年間だけでも、数えきれない程の種類の募金を集めていて、その為のイベントも盛んに行われています。シドニーのフェリー発着所サーキュラーキーで行われていたイベントの1つに、“貧しい人に配るための、世界のシェフが作る巨大リゾット”というものがありました。その美味しそうなおいにつられて、大勢の人がリゾットの出来上がるのを待ち構えていました。もちろん私もそのうちの一人でしたが。。。ちゃんと寄付もさせて頂きました。



私の好きな買い物の1つ、なんて単なるスーパーマーケットでの食品の買い物ですが、とにかくお肉や乳製品、ハーブなどが安く(もちろんワインも)、たしかに昔と比べるとかなり物価は上がってしまっていますが、それでもまだ日本よりはお手頃な値段ではないでしょうか。さすがに Barbie (バービー=バーベキューのことで)好きのオーストラリアだけあって、日本で言えば一週間分ぐらいの量で売られているお肉を、ドカドカと買い込んでいたがいったい何日持つのでしょうか？ここに来て間もない頃は、「こんなに量が多かったら、買っても食べきれないなあ」なんて思っていたのに、帰る頃には私達の胃袋もすっかりこちらのサイズになってしまいました。しかし、肥満を気にする傾向もあり、“low-fat” “no sugar” “gluten free” と表記されている食品も多く、脂肪や糖分そしてタンパク質のとり過ぎに注意しているようです。“vegetarian”(菜食主義者)の食品コーナーもあり、そこには日本では馴染みのお豆腐の姿もありました。

シドニーで迎える3度目のニューイヤーで初めて、住んでいたアパートの屋上に出ることが出来る事に気が付きました。花火をみるには超特等席でした。なんと、いつもは1ヶ所しか観られなかった花火が4ヶ所同時に観ることができるのです。なんと豪快でした。祝日の少ないオーストラリアでは、クリスマスから新年のカウントダウンまでが1年の最大の楽しみになっています。それに世界のほかの国に先駆けて時間的には一番早く新年を迎えるだけに、凝ったイルミネーションやイベントの華やかさは必見です。といっても、私たちの屋上桟敷にはもうご招待できないのが残念ですが。

私の好きなオーストラリアの食べ物やお花、そしてたくさんの美しいビーチ、まだまだ紹介したいことはたくさんありますが、それはこの国に足を運んだ時に発見してみてください。

この雄大な大自然を持つ国に住んでみて私なりに感じたことは、ここへ住むならまず時間をあまり気にせず流れに身を任せること、そして日本のお客様へのサービスを他の国に求めてはいけないこと、そして何よりもこの人達は自分の国をとて愛していて誇りに思っているということでした。日本のように手に入ら

い物はないのではないかと思ってしまう程、新しいものをどんどん取り入れて前に進んで行く国もあれば、自分の国のカラーを変えず突き進んで行くこんな国も、不便な事はあっても個性的で素敵だなと思いました。

このメルマガが皆さんのお手元に届く今日1月26日は、オーストラリアの建国記念日にあたる「オーストラリア・デー」。1788年のこの日に、シドニーへの入植が始まりました。オーストラリアの人たちは、この日を船のショーやパレード、そして花火などで、オーストラリア人であることの誇りをお祝いします。

日本に住んでいると解らない外国の良さ、そしてそれ以上に日本の良さが身に沁みた3年間でした。今年8月に東京にもどって、やっと住むところもみつきり落ち着いたところです。”初”の放送体験も忘れられません。不慣れで不十分なオーストラリア・レポートでしたが、番組を聴かれたリスナーの方々から励ましをいただきうれしかったです。最後になりましたが、主人ともども深くお礼を申し上げます。

《了》

尾崎みちほ:

大阪府藤井寺市生まれ、2002年6月に尾崎一夫・久子夫妻の次男祐二と結婚し、尾崎ファミリーの一員となる。オーストラリアからの短波放送では、レポーターとしても活躍。2006年8月に帰国し、現在は東京に在住。

みちほの「オーストラリア生活体験記」(前編)は、[HCJB日本語放送のホームページ](http://japanese.hcjb.org/) (<http://japanese.hcjb.org/>) 内にある[メルマガ発信](http://japanese.hcjb.org/mmz/index.html) (<http://japanese.hcjb.org/mmz/index.html>) コーナーの[バックナンバー第45号](#)でご覧になれます。

HCJB日本語放送担当

在 主 尾 崎 一 夫

HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放 送 日 時 : 毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)
送 信 周 波 数 : 1 5 5 2 5 k H z (1 9 m b)
受信報告書の宛先 : 〒169-0073
東京都新宿区百人町 1 - 1 7 - 8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

[HCJB日本語放送のホームページ](http://japanese.hcjb.org/) (<http://japanese.hcjb.org/>) には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://japanese.hcjb.org/forums/)」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmz/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお

送ってください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2007 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
